

現役教師ですが
“教育”について
こんなことを考えてます。

—これからの教育を担う人たちへ—



受験生にとって聞けそうで、なかなか聞く機会がないのが現役教師の教育観。
毎月1つのテーマを取り上げ、先生方の考えを聞いてみました！

今月のテーマ：「10年目の私が考える教育」

今月のテーマは教員10年目を迎えて考えたこと。教員生活には様々なドラマがあります。節目である10年目を迎えると、はたしてどのようなことを考えるのでしょうか。辻先生に伺いました。

著 辻真実

福岡県柳川市出身。平成22年
小学校教諭になる。現在、千葉県
八千代市立大和田小学校教諭。

教師のやりがい

「教師」。幼いころの私にとってそれは、「父と母」でした。私は福岡県柳川市出身です。母はその福岡県で小学校の教師をしています。私が幼いころから母は毎日帰りが遅く、私はいつもさみしい思いをしていました。でも仕事をがんばっている母に「さみしい」とは言えませんでした。そのため、私は母が帰ってくるとすぐそばに行き、今日起こった出来事をずっと話していました。母はどんなに遅く帰ってきても私の話を聞いてくれます。「大変だけど、教師は楽しい。やりがいがある」といつも言っていました。

父は中学校の教師で、私が18の時に他界しました。生前最後の言葉は「真実、先生になってね」という言葉でした。病室で最後の力を振り絞って言ってくれた言葉です。父もまた教師にやりがいを感じ、自分が経験してきたことを私にも味わって欲しかったのではないかと思います。そんな父と母の姿を見て、私は幼いころから徐々に教師になりたいという思いを持つようになりました。

そして念願叶い、教師になりました。しかし、前回の筆者の野中先生と同じように、悪戦苦闘の日々で

した。福岡から単身出てきた私は、周りに知り合いもいません。そんな私を支えてくださったのは、同僚の先生方です。妹や娘のように可愛がってもらいました。同期も心強い味方でした。話をすることで、「明日からもがんばろう」という気持ちが湧いてきました。周りの先生方に支えていただいたからこそ今の私があります。今も私の周りには尊敬する先生がたくさんいます。先生方から日々学んだことを子どもたちに伝えています。子どものことを第一に考え、子どものために毎日を過ごされている先生方と一緒に働けて幸せです。

私の勤務する大和田小学校は、2019年で創立147周年という長い歴史を持つため、地域との関わりも多い学校です。先日、地域の方が「子どもたちのがんばる姿を見ると、涙が出ます」と話してくれました。地域の方の温かい気持ちを感じ、子どもたちもとても嬉しそうでした。教育は家庭、学校、地域の3者が関わり合って行うものです。地域との関わりは当たり前ではなく、「有難いもの」と伝えることで、子どもたちが感謝の気持ちを持ち、地域の方への挨拶や地域行事に主体的に参加することにつながる大切だと思います。

海外の学級との交流を実現

2018年、韓国の学校を訪問し、大きな衝撃を受けました。日本の教育を受け、日本の教育を行っていた私にとって、「教育」とは「日本の教育」が全てでした。しかし、教育にも文化があり、歴史があり、国によって大きく違うことを肌で感じました。そこから海外の教育や文化、人柄に興味を持ち始め、4カ国の小学校や日本人学校を訪問しました。各国を訪れて一番感じたことは「これからの日本の教育」についてです。世界には様々な文化があり、様々な人がいます。国によって大切にしていることも違います。そのような様々な国の人と一緒に過ごし、生活していくために、これからの子どもたちに求められることは何なのか。

一番大切なのは「他を理解し、受容する」ことではないかと思います。自分とは違う価値観と出会ったとき、それを理解し受け入れられるかどうかで、他者との関わり方が変わってくると考えるからです。そのためまずは他者を知ることから始めるのが大切だと感じ、2018年、私が担任をしていた学級と、韓国の学級でSkypeでの交流を行いました。世界の子どもたちが良い関係でつながる架け橋になれるよう、教師もアップデートしていく必要があると考えます。

教育とは「今」でなく、「未来」のための仕事

この10年間、たくさん子どもたちと出会ってきました。とても可愛い子どもたちですが、時には、教師の思いが伝わらないこともあります。子どもたちにたくさんの力をつけてあげたいと思うのですが、その思いが強すぎると教師も子どもも辛くなってしまうことをこの10年間で学びました。子どもによっては成長がすぐに現れない場合もあります。でも、

教えたこと、伝えたことは消えません。子どもたちが大きくなった時に、「あの時、こんなことがあった」「先生はこう言っていた」とその子の一部になっていたら良いのではないかと考えるようになりました。

先日、以前5、6年生の時に担任した卒業生と偶然会いました。その子は、なかなか友達の気持ちを理解できず、思ったことをすぐ口に出してしまい、人間関係で悩むことが多かった子でした。毎日その子の話を聞き、周りの子どもたちの気持ちを伝え、何度も何度も話し合った子でした。その子が、周りの人とコミュニケーションを上手にとり、立派に働いている姿を見て、私は涙が出てきました。当時悩んだ分、とてもとても嬉しい出来事でした。「教育」とは、「今」であるように感じるのですが、「教育」は、「未来」でもあります。私たち教師が「今」行っていることは、子どもたちの将来につながっています。子どもたちの将来とは、大きく言えば「日本の将来・世界の将来」です。そう考えると、私たち教師は「未来」を作っていると言っても過言ではありません。とても素敵な責任ある仕事だと思います。

たくさんのつながりのおかげ

ここまで書いてきたように、私はたくさんのつながりと共に10年間を歩んできました。今の自分があるのは、そのおかげです。これから教師になるみなさんも、この先いろいろなことがあると思います。でも大丈夫です。みなさんの周りには、助けてくれる子どもたち、先生、環境がたくさんあります。そしてそのつながりは自分自身を大きく成長させてくれるはずです。たくさんのつながりと感謝の気持ちを大切に、みなさんが「教師になってよかった！」と思える日々が来ることを心から願っています。一緒にがんばりましょう。

今月のまとめ

- 世界の子どもたちをつなげられるよう、教師もアップデートしていく必要がある。
- 子どもの将来を作る教育は、日本の未来を作ることに繋がっていく。
- たくさんのつながりに支えられて今の自分がある。